

実施日：7月12日（3校時）	
領域：(①教科（ ）、②道徳（特別の教科 道徳）、③特別活動、④総合的な学習の時間）	
取組名：多文化共生について考えよう	
対象：中学3年生	実施場所：社会科教室
ア ねらい パキスタンから転校してきた同級生（Mさん）から、パキスタンという国についてや、日本での生活で感じたことについてまとめた発表を聞き、事前にビデオを視聴するなどして学習した多文化共生の問題点と合わせて考え、外国にルーツをもつ人と、よりよい関係を築いていくことについて考える。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ① 事前準備として、前時にMさんにはパキスタンの紹介と日本の生活についてのスライドを作成するよう依頼し、英語で書いた文を日本語に直す支援をする。他の生徒達には外国にルーツをもつ人が地域の中で生活しようとするビデオ『ようこそ多国籍商店街へ 多様性でシャッター通りを救え！』（NNN ドキュメント 日本テレビ 2023. 1. 8）を見せて、班ごとに考えをまとめたスライドを作成するよう指示する。 ② 最初にMさんの発表を行い、教師が補足する。 ③ 各班の発表を行う。 ④ 互いの意見を聞いたうえでの感想を書く。	
ウ 連携先：青垣小学校	
エ 連携にむけての取組 Mさんの弟が通う青垣小学校と連絡を取り合い、家庭の状況や、宗教上の注意点が絡む給食の状況（野菜をあまり食べないが、それは宗教的な問題ではない）を共有し、Mさんたちへの理解を深めた。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 学年の教師全員で取組内容を確認し、指導した。ビデオを見たあと、スライドを作成する際の生徒の話合いの方向性を見極め、助言した。	
カ 評価の方法 グループ活動時の観察・感想文、ふり返りシートの点検、評価	
キ 成果 ・ビデオを見た時点では、身近な問題として捉えられていなかったが、Mさんの発表の最後に「人種差別がある」と断言されて、身近な問題なのだ認識できていた生徒が相当数いた。 ・日本のルールを一方向的に押し付けるべきではなく、相手とのコミュニケーションを重視するべきという考え方が定着している。 ・パキスタンという国やMさんの苦労について、生徒たちは素直に受け止めていた。 ・以前から親しくしている生徒たちは、Mさんから昼休みにパキスタンの話を聞いたり、Mさんに学校のルールを簡単な日本語や英語で教えたりしていたが、そうではなかった生徒たちも、Mさんへの理解を深めて、気づかう様子が見られるようになった。	
ク 課題 一般論としては考えられても、依然、具体的な行動に移せない生徒はいるので、行動することについて、継続して考えさせていきたい。	